



学園広報誌



No.44

2024年8月30日発行



学校法人 大阪成蹊学園

大阪成蹊大学
びわこ成蹊スポーツ大学
大阪成蹊短期大学
大阪成蹊女子高等学校
こみち幼稚園

びわこ成蹊スポーツ大学



びわこ成蹊スポーツ大学
第6代学長 間野義之学長就任あいさつ

新たな時代を拓く

「スポーツ・オープンイノベーション・カレッジ」へ

学長就任の抱負

新しいスポーツ文化の創造に向けて

私は本学の理念である「新しいスポーツ文化の創造」に強い共感を抱き、この役職を引き受けました。スポーツは「する」だけでなく、「みる」「ささえる」など多様な側面を持っています。人々の人生を豊かにする可能性を秘めた「スポーツ」を通して、本学の豊かな自然環境を最大限に活用し、学生一人ひとりが成長できる大学をめざしたいと考えています。また、地域社会との連携を深めながら、学生だけでなく、一人でも多くの人にとってwell-beingを高めるための教育と研究に努めたいと考えています。また、90年以上の歴史と伝統がある大阪成蹊学園の一員として、本学だけでなく、大阪成蹊大学・短期大学、大阪成蹊女子高校とも連携・協働し、ともに発展できるように尽力します。

私の歩みと

びわこ成蹊スポーツ大学との出会い

私は神奈川県横浜市出身で、横浜国立大学、東京大学で教育学を学び、スポーツ政策を専門として長年研究を続けてきました。早稲田大学ではスポーツ科学学術院の教授を務める傍ら、スポーツ庁や経済産業省の各種委員会でスポーツ政策の立案に関わってきました。その中で強く実感したのが、スポーツの持つ無限の可能性です。スポーツは、単なる競技やレクリエーションにとどまらず、人々の健康増進、地域活性化、さらには社会課題の解決にも貢献できる力を持っています。

私とびわこ成蹊スポーツ大学との出会いは、スイスのローザンヌでの研究計画がコロナ禍で中止となった際、現地の景色とサンダーバードから見た湖西の景色がとても良く

似ていて、心が動かされたことから始まりました。その後、琵琶湖と比良山系の自然に魅了され、研究の場として訪れる機会が増える中で、地域との交流を深めました。これが縁となり、2024年4月に副学長として着任し、このたび学長に就任する運びとなりました。

地域と共創する

「スポーツ・オープンイノベーション・カレッジ」

私は、びわこ成蹊スポーツ大学を「地域と共に歩む、未来への架け橋」となる「スポーツ・オープンイノベーション・カレッジ」へと発展させていきます。具体的には、以下の3つの柱を中心に、大学改革を推進していきます。

1. 地域スポーツの活性化と人材育成

地域のスポーツ指導者養成や、中高生の部活動指導者派遣などを通じて、地域スポー

ツの基盤を強化します。

2. スポーツを通じた地域課題の解決

高齢化や健康格差など、地域が抱える課題解決に向け、スポーツの力を活用した取り組みを推進します。

3. 産学官連携による新たな価値の創出

スポーツ企業や自治体と連携し、新たなスポーツの価値創出に取り組みます。

地域の方々、企業、行政機関、そして教育機関と連携し、「地域に貢献する大学」へとより一層発展させていきます。「スポーツ」の力で地域を活性化し、社会課題を解決するビジョンを共有し、共に歩んでいただければ幸いです。スポーツ・オープンイノベーション・カレッジとして、新たな時代を切り拓いていきましょう。

大阪成蹊大学

大阪成蹊大学の学生募集活動について

広報統括本部長 日比野 優

企業に対するDXの取り組みやGXに対する要請の強まりなどを背景に産業構造の変革が急速に進む中、ITを含め新たな時代を担う人材の育成が急務となっています。一方、少子化の影響を受け18歳人口の減少が益々顕著になり、これからの大学にとって、より多くの優秀な学生に入学してもらうことが大変重要なことと言えます。

学生募集について、広報統括本部では将来を展望する中、2025年度入試を大きな節

目と捉え、数多くの新たな施策に取り組んでいます。具体的には、受験生の進路指導に欠かせない塾・予備校の先生方との深耕、高大連携を含む高校との紐帯強化、テレビCMやWEB広報の充実、データサイエンス学部女子枠入試の設定を含む入試制度改革など、数多くの新しい施策を展開しています。

その結果、3月よりスタートしたオープンキャンパスの生徒来場者数が7月までの開催で前年同期比128%となり、毎回会場は例年

に増して大変な盛況感に包まれています。また、5月に実施された大手予備校の高校3年生向け全国模試の大学の偏差値調査では私立大学の2極化が進み多くの大学が偏差値を落とす中、本学は有名私立大学とともに偏差値が上昇しています。

また、ここ数年の本学の入学生の出身高校を見ますと、関西にとどまらず全国の600校以上の高校から入学者がいます。更に関西圏を中心に有名公立高校、有名私立高校からの入学者も増えています。これは、本学の学びの充実と魅力が広く知れ渡り、幅広い層から志願する受験生が増えている証左と言えます。



これから始まる入試に備えるとともに安定的な志願者増強に向けて、本学の魅力の発信を一層強化していきます。

2面・3面関連記事

第44号 学園広報誌



- 2面 大阪成蹊学園 教学改革の取り組み
- 3面 大阪成蹊学園 教学改革の成果
- 4面 学部・学科ニュース
- 5面 卒業生インタビュー

- 6面 学外連携(データサイエンスシンポジウム ほか)
- 7面 クラブ活動 TOPICS こみち幼稚園だより ほか
- 8面 第14回全国アート&デザインコンペティション ほか

大阪成蹊学園 教学改革の取り組み

240人超の教職員が参加する18のプロジェクトチームを中心に、全学で『教学改革』を推進。
平成27年度より全学的な教学改革を推進する組織体制を構築するため、
教学改革FSD会議及び高等教育研究所を設置するとともに、才気溢れる若手教員と豊富な
教育研究実績を持つ中堅・ベテラン教員による教学改革プロジェクトチームを編成。

創設以来10年間で128回の会議を開催。平成29年度に受審した
日本高等教育評価機構の認証評価において、『教学改革会議』のもとに
プロジェクトチームを組織して教育改革への取り組みが進められていることが
「優れた点」の1つとして評価されました。



2024年度 教学改革プロジェクト一覧

- | | | |
|-------------------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 1 「初年次教育・キャリア教育を核とする全学教育の実現」 | 7 「産・学・地の連携による教育研究の充実」 | 13 「シラバスの一層の充実」 |
| 2 「全学的なアクティブラーニングの推進」 | 8 「適切な成績評価の実施」 | 14 「ラーニングコモンズの活性化」 |
| 3 「全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築と学内DXの推進」 | 9 「授業評価アンケートの活用」 | 15 「教学IRの充実」 |
| 4 「英語・グローバル教育の充実」 | 10 「学修成果の可視化」 | 16 「体系的なFDプログラムの展開」 |
| 5 「パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトの推進」 | 11 「インターンシップ制度の充実」 | 17 「学修成果を発揮する各種大会・コンペティションの充実」 |
| 6 「専門演習(ゼミ)、卒業研究・卒業制作の充実」 | 12 「高大接続改革の実現」 | 18 「教員表彰制度の充実」 |

取り組み例

1 初年次教育の充実 SDGsビジョンレポートコンテスト

全学で初年次教育科目の授業内にてSDGsに関するレポートを作成。3次審査(最終審査)は大学学長と学外有識者が評議し、優秀作品を選出し、表彰。選出作品を「SDGsビジョン(優秀レポート集)」として発行。

- 4 SDGs04:SDGsとゲームの関係性-なぜ今マイクラが注目されているのか?-
- 8 ファッション業界における労働問題について
- 12 食品ロスについての『作る責任、使う責任』
- 11 少子高齢化問題について-インディーゲームクリエイターとして
- 15 DG 15. 陸の豊かさを守ろう~地球緑化は大学構内から~
- 3 「すべての人に健康と福祉を」に関する研究-発展途上国の医療体制を中心に-



▲成果物となる提言レポート



▲優秀レポートの表彰

2 全学的なアクティブラーニングの推進 アクティブラーニングの特色

1. 大学独自の「アクティブ ラーニング ハンドブック」を作成・配布し、研修を実施。
2. 全教員が担当する授業における「アクティブ ラーニング実施計画書」を作成。
3. 全専任教員が「私のアクティブ ラーニング」として代表的な授業におけるアクティブラーニングを紹介する資料を作成。
4. 授業評価アンケート等でアクティブ ラーニング効果の検証を行い、授業改善に関する相談体制の構築や研究会の開催。
5. シラバスへのアクティブ ラーニング手法等の記載などを実施。オンライン教育展開を反映し、授業実践に役立つ様々なICTツールについてまとめた「ICTを活用したアクティブ ラーニング」を作成。
6. アクティブ ラーニングに係る学内専用WEBサイトを構築し、学内FD等で活用できるよう解説動画を公開。



▲アクティブラーニングハンドブック

17 学修成果を発揮するコンペティション 2023年度は6,800人が参加

■主な参加者数

(大阪成蹊大学 約4,200人、びわこ成蹊スポーツ大学 約420人、大阪成蹊短期大学 約2,170人)

「大阪成蹊カップ(プレゼンテーション大会)」	1,274人
「未来展望レポートコンテスト」	738人
「英語プレゼンテーション/暗誦コンテスト」	572人
「読書コンクール」	1,425人
「ビブリオバトル~知的書評合戦~」	854人
「めざせMaestro!~ピアノコンペティション~」	244人
合計	約6,800人



▲大阪成蹊カップ(プレゼンテーション大会)



▲英語プレゼンテーション/暗誦コンテスト

2025年度入試改革(大阪成蹊大学)

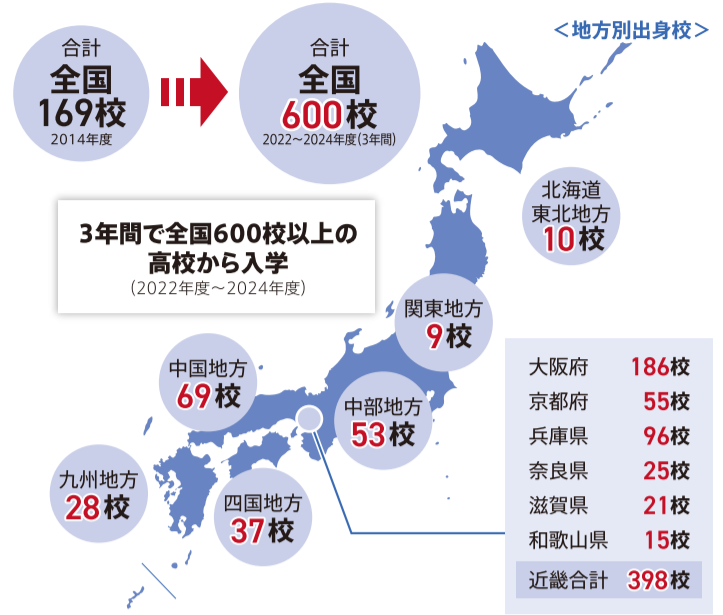
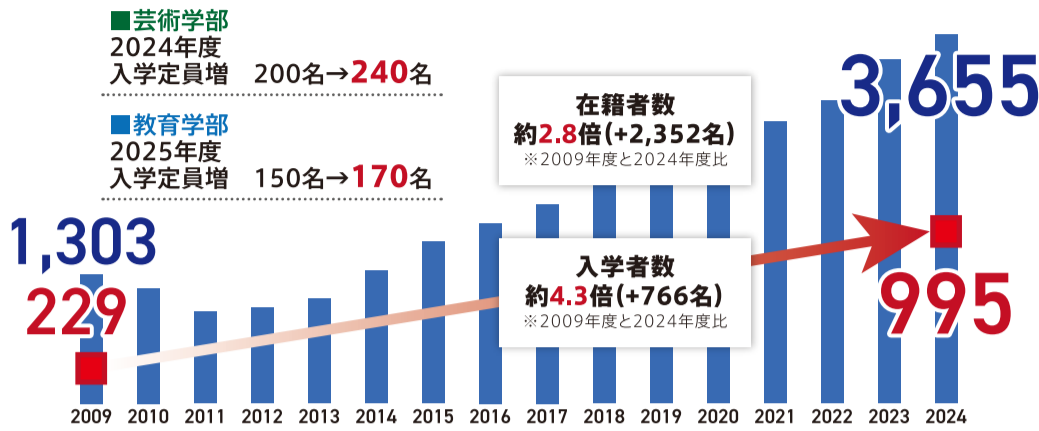
大阪成蹊大学では、2025年度入試制度の改革を実施します。

1. 総合型選抜入試5日程を新設
受験生に多様な受験機会を提供
2. 一般選抜・共通テスト併用入試を新設
合格チャンスが拡大
3. 総合型選抜入試に資格加点制度を導入
英語系・商業系・情報系など約30種類の資格・検定が対象
4. 複数判定で合格チャンスが拡大
追加検定料不要
5. データサイエンス学部で文系受験型を新設
公募推薦入試・一般選抜入試が対象
6. データサイエンス学部で女子特別枠を新設
総合型選抜入試・公募推薦入試が対象/本学独自の奨学金も設定
7. データサイエンス学部に本学独自の奨学金制度を設定
第3期入学生全員と成績優秀者が対象
*必ず募集要項をご確認下さい。



大阪成蹊学園 教学改革の成果

1. 入学者・在籍者数が大幅に増加 (大阪成蹊大学)

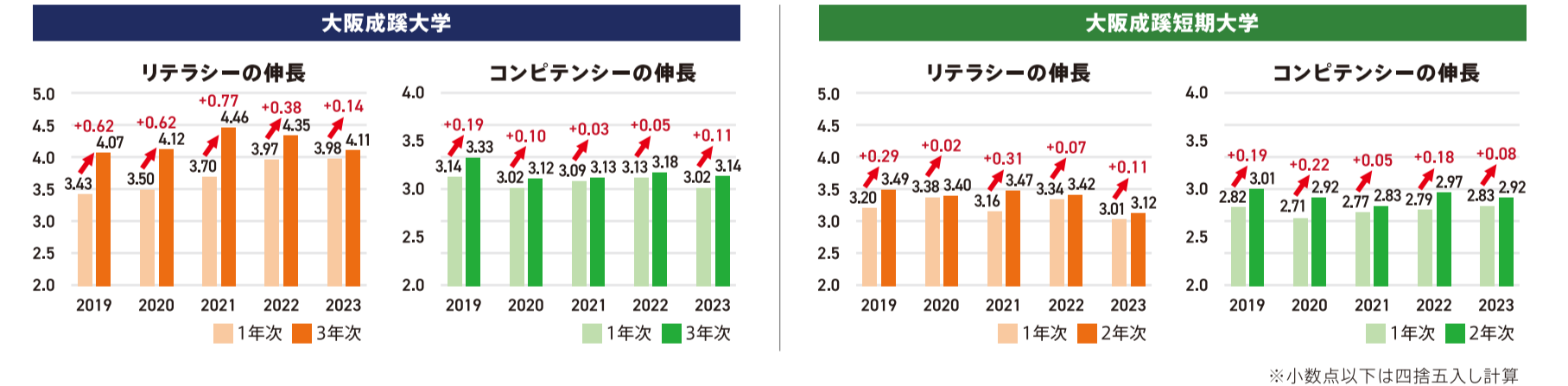


2. 受験生の主な併願先大学も増加 (大阪成蹊大学)

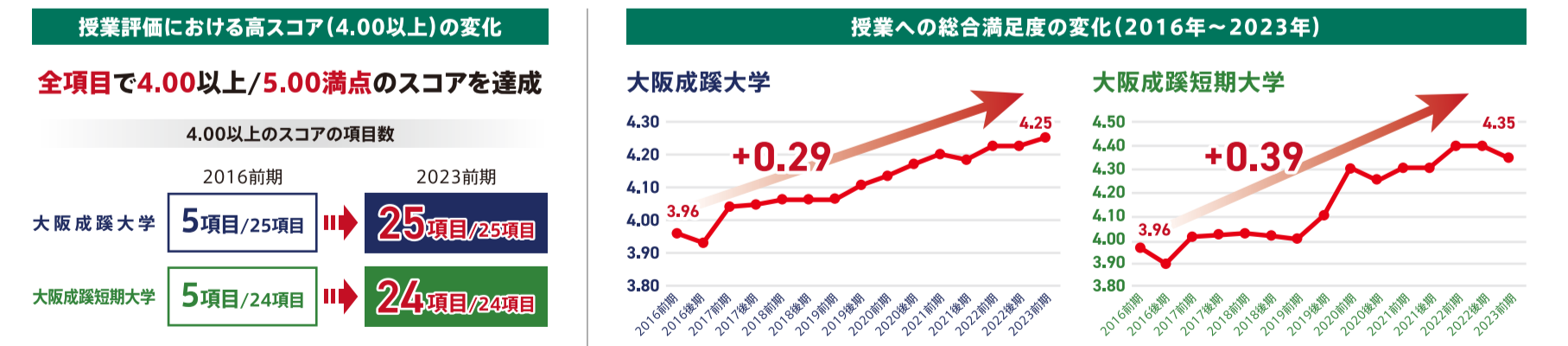
2018年度	2022年度～2024年度
国公立大学 6校	国公立大学 48校
広島大学	大阪大学 神戸市看護大学 和歌山大学 信州大学 島根大学 大分大学 釧路公立大学 福井大学
大阪教育大学	大阪公立大学 京都教育大学 筑波大学 新潟大学 高知大学 宇都宮大学 宮城大学 福岡教育大学
奈良教育大学	大阪教育大学 滋賀大学 東京学芸大学 愛媛大学 高知県立大学 上越教育大学 滋賀県立大学 福知山公立大学
兵庫教育大学	神戸大学 奈良県立大学 岡山大学 香川大学 静岡県立大学 新見公立大学 長崎県立大学 周南公立大学
香川大学	兵庫県立大学 奈良教育大学 岡山県立大学 静岡大学 福島県立医科大学 福山市立大学 鹿児島大学 鳴門教育大学
長崎県立大学	兵庫教育大学 三重大学 山形大学 横浜市立大学 北九州市立大学 秋田県立大学 山口大学 沖縄県立看護大学
私立大学 11校	私立大学(関西地区) 14校
立命館大学 神戸学院大学 甲南大学	同志社大学 摂南大学 立命館大学 神戸学院大学 関西学院大学 追手門学院大学 龍谷大学 桃山学院大学
関西大学 桃山学院大学 摂南大学	近畿大学 京都薬科大学 京都産業大学 同志社女子大学 甲南大学 関西大学
京都産業大学 関西学院大学 追手門学院大学	私立大学(関西地区以外) 16校
龍谷大学 近畿大学	日本大学 神奈川大学 立教大学 帝京大学 東海大学 中京大学 多摩美術大学 玉川大学
	武蔵野大学 岐阜聖徳学園大学 東京農業大学 立命館アジア太平洋大学 國學院大学 東洋大学 名城大学 武蔵野美術大学

3. リテラシー・コンピテンシーともに伸長 (PROGテストによる)

「PROGテスト」により、社会で求められる汎用的な能力・態度を測定。入学時と3年次(短大は2年次)の測定により、学生の成長を可視化します。



4. 授業満足度が向上



大阪成蹊学園

ファミリー入試制度のご案内

ご家族(受験者から三親等以内)のいずれかが、大阪成蹊学園内の設置校(大阪成蹊大学・びわこ成蹊スポーツ大学・大阪成蹊短期大学・大阪成蹊女子高等学校)の卒業生または在籍生である方が対象になります。ファミリー入試合格者のうち、成績基準を満たす方には学費減免制度などの特典があります。

※2025年度入試は募集要項をご確認ください。お問い合わせは右記まで。

お問い合わせ先

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学 広報統括本部
Tel: 06-6829-2554 (平日9:00-17:00)

びわこ成蹊スポーツ大学 入試部入試課
Tel: 077-596-8425 (平日9:00-17:00)

学部・学科ニュース

大阪成蹊大学

データサイエンス学部

吉岡大宙さんが
海外の研究発表会に挑戦

3月に、データサイエンス学部の吉岡大宙さん(当時1年生)が、釜山大学(韓国)での発表会に参加しました。釜山大学は本学と学術交流に関する覚書を締結している大学で、先方も含め主に先生方の発表会でしたが、吉岡さんが唯一学生として発表しました。発表のテーマは、「Innovative 3D Scanning Technologies and Their Diverse Applications」。吉岡さんは、学内でさまざまな企業の特別授業に参加する中で、サイバネットシステム社の3Dスキャナーに興味を持ったことから、このテーマを選んだとのこと。

学生コメント

吉岡大宙さん(2年生)

3Dスキャナーから発せられる赤外線レーザーを当てると、スキャナーの方に帰ってきます。その反射した時間で距離を測り、その空間を一つ一つ点にして空間データを作りますが、データの要らない部分、間違えている部分、勝手に入っている部分など、そういった間違いを修正・削除していく必要があり、加工してポリゴンデータというものを作るところ

を今回発表しました。

発表は英語で行ったため、緊張感もあり大変難しかったですが、海外で発表するという経験から、英語の重要性を肌で感じることができました。これから英語の勉強にも力を入れたいと思います。

また、釜山大学の先生の中で、自分の興味がある分野の発表をされる先生がいらっしゃって、すごく面白いと感じました。発表以外でも、大学院の施設見学があり、水の動きを計測してデータ化する装置など、いろいろ見ることができ、とても勉強になりました。

今は興味のある分野をさらに掘り下げつつ、一方で視野を広げることも大事だと思いますので、これから幅広く勉強しようと考えています。現在2年生ですが、入学前に想像していた以上の自分自身の成長を感じています。



부산
釜山大学校 ▶

びわこ成蹊スポーツ大学

スポーツ学部

都市対抗野球大会の
勝利監督インタビューに挑戦

5月にわかさスタジアム京都にて行われた、第95回都市対抗野球大会・近畿地区・第二次予選(第1代表決定戦)で、試合後の勝利監督へのインタビューを、スポーツビジネスコースに所属する浅野希星さん(4年次生)が務めました。同大会で大学生がインタビューを務めるのは、昨年度の本学の吉田早莉奈さん(4年次生)・渡邊太陽さん(4年次生)に引き続き2回目となります。

「社会や企業に社会人野球の魅力を発信したい」「学生からの関心を高めたい」という想いを抱かれていた日本野球連盟(JABA)近畿地区連盟から本学へ打診があり、本学の学生にとっても、貴重な経験ができる場であることから、昨年度から本学の学生が大会のインタビューを担当しています。

今回は、硬式野球部(女子)の選手として活動する浅野さんがインタビューに挑戦。インタビューを務めるのは初めての経験ということで、非常に緊張した面持ちでしたが、勝利された日本生命保険相互会社野球

部の梶田茂生監督に、堂々と勝利監督インタビューを行いました。

学生コメント

浅野希星さん(4年次生)

インタビューを通して、試合中に考えなければいけないことがたくさんあるということは分かっていましたが、思ったより以上に頭を使う役割で驚いたのが正直な印象です。次の機会では、試合の展開や選手のことも交えながらインタビューを行い、もっと盛り上げたいです。球場全体が注目するインタビューは、緊張でドキドキしましたが、貴重な経験を楽しむことができました。



大阪成蹊大学

芸術学部

フィリピンの
子どもたちをモデルにした
ファッションショーに参加

▲左:中川優里さん 右:角田桃奈さん

ファッションと教育を通して社会課題の解決をめざすNPO法人「DEAR ME」が主催するファッションショー(例年2月開催)に、本学のグローバルアクティブラーニングの一環で、学生が参加しました。昨年に続き2回目の参加となる今年は、昨年の倍の約40名の学生が参加する予定となっており、今年もリーダーを務める中川さんと角田さんが、昨年の振り返りと今年の抱負を語ってくれました。

当初は、衣装だけを製作するという漠然としたイメージでスタートしましたが、子どもたちと

オンラインで打ち合わせをしたり、過去のファッションショーの映像を確認したり、スラム街・貧困などについて事前学習を実施する中で、だんだんとこの子どもたちが自分たちの作った衣装を着てくれると思うと熱が入り、最終的にファッションショーで子どもたちが衣装を着た光景を目にすると、参加した学生全員が号泣していました。

英語によるコミュニケーションに不安がありましたが、「大人も子どもたちもみんな性格が明るくて、小さな子は英語が喋れなかったので



▲子供たちとステージに立つ角田さん(中央)

すが、衣装を着て喜んでいるのもわかり、なんとかボディランゲージで伝わりました。笑顔は、国境を越えると言いますが、ファッションは国境を超えると感じました。」と中川さん。角田さんも、「誰かのために服を作って喜んでもらったことが、このファッションショーを通して一番得たものでした。着る人の喜びが大きく製作者である私たちに伝わったからこそ、服作りの本質を感じられました。」と振り返りました。また、「今年はこんなポーズの時、かわいいだらうとか、想像しながら衣装製作ができるので、より想いを込

めた製作がしたいですし、初めて参加する後輩に対しても、適切なアドバイスができればいいなと思います。」と抱負を語ってくれました。

今年は、新たな試みも計画しています。フィリピンの子どもたちの豊かな未来につながればとの思いから、「DEAR ME」が作ったフィリピンの学校で、学生たちがトップスとパンツとワンピースの3パターンを教える機会を設ける予定となっています。学生たちは、これらの体験を通して、ファッションや服作りの本質、異文化理解など、多くのことを学んでいます。

社会で活躍する 卒業生インタビュー

様々な業界で活躍する本学の卒業生の方々に、お仕事や学生時代の学び、後輩へのメッセージについて伺いました。

大阪成蹊短期大学 観光学科 2012年3月卒業
五十川 みのりさん(コンラッド大阪)

在学中のご縁から、 やりがいのある仕事に出会えた

大学を卒業後、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの近隣のホテルに勤めた後、コンラッド大阪の開業時から同ホテルに勤務し、7年が経過。現在、料理飲料部門で、同ホテルの40階にある「アトモス・ダイニング」に勤務している。



—現在の仕事内容について教えてください。



ホテルの直営レストランで、お客様とのファーストコンタクトを行う受付業務を主に担当しており、お客様への接客はもちろん、予約管理や電話対応、リクエストが入っている予約の内容などの確認をしています。レストランへの予約はホテルへ直接入る場合と、「OTA」と呼ばれるオンライン予約エージェント(食べログ、一休、オズモールなど)からの場合があり、オンライン予約だけでも1日あたり約50~70件ほどの予約が入ります。

また、お祝い事や記念日、車いすでお越しになるなど、お客様に応じて適したお席をアサインするのも大事な仕事です。アレルギー対応メニューや宗教的な制約などをお伺いして最適なメニューを提案するなど、お客様がいらっしゃる前にお伺いすることはたくさんあります。今年の6月に、ホテル開業7周年を迎えたこともあり、特別プランなどのご紹介なども行っています。今は円安の影響やヒルトン系列の外資系ホテルということもあり、海外のお客様が増加しています。

勤務して7年になりますが、当ホテルのスタッフは、モチベー

ションが高く、同じ方向を向いて仕事をしていると感じます。自分より高いモチベーションで仕事をしている先輩方や同僚が多く、自分は「まだまだだな」と感じています。

—この仕事を選んだ理由とやりがいについて教えてください

短大在学中に、国枝先生からホテルでのアルバイトの紹介があり、やってみないかと言われたのがホテルで仕事を始めるきっかけになりました。そのアルバイトを通じ、お客様と接する中で、喜んでいただけたことにやりがいを感じ、これも何かのご縁だと思っています。

ホテルでは、お客様一人ひとりに対応するパーソナルなサービスを常に心掛けています。お食事中にサプライズの計画があるお客様の場合、事前にご希望などをお伺いして対応のですが、そのサプライズがうまくいった時には、とてもうれしく感じます。また、コロナ禍でお客様の来店が見込めない時期でも、来てくださるリピーターのお客様がいらっしゃることは、本当にうれしかったですし、励みにもなりました。

—大阪成蹊短期大学を選んだ理由と学生時代の思い出は?

元々は、地理に興味があり、国内には魅力的な場所がたくさんあるので、そういった場所をご案内できる添乗員になりたいと思い、観光学科がある大学を探していました。関西は修学旅行で行ったこともあり、地理的にも好きだったということもあ

り、大阪成蹊短期大学を選びました。

学生時代は、実際に関西のいろいろな場所に行きました。夏休みには京都の祇園祭りや奈良はもちろん、岐阜県出身の私にとっては、普段大阪市内を少し歩くだけでも観光気分でした。また、吹田市で下宿をしていたのですが、アルバイトと学業の両立が大変だったことを今も覚えています。

—後輩へ向けてメッセージをお願いします

私自身は、夢や目標を追いかけたり、元々イメージしていた仕事に就いたわけではありませんが、今、夢があり、目標を持って学校で学んでいる方も本当に素晴らしいと思います。また、今はまだ夢や目標が見つからないという方も、あまり気落ちせずに、頑張ってくださいと思います。

大学の中には本当に親身になってくださる先生がいらっしゃるの、先生になんでも相談することをお勧めします。私のようにいいご縁が見つかるといいですね。



大阪成蹊女子高等学校 1994年3月卒業
田中 友香理さん(フリーアナウンサー)

高校時代に抱いた夢を今も追いつける

大阪府出身(現在は鳥取県米子市在住)。BSS(山陰放送)ラジオでのMC、リポーターを務める一方、2023年「米子ふるさと観光大使」に就任。その他執筆、講演活動など多方面で精力的に活躍。また、3児の母としても奮闘中。

—現在の仕事内容について教えてください。

20代でフリーアナウンサーになり、山陰放送でお仕事を始めたのが29歳の時でした。今はテレビやラジオのレギュラー番組のほか、米子市のふるさと観光大使や、『とりたペローカルインフルエンサー』(鳥取県食パラダイス推進課 公式グルメインフルエンサー)という活動もしています。

今回は、『ふるさと鳥取県定住機構』という鳥取県へ移住を促進する団体から、鳥取県で活躍されている移住者の人たちと一緒に話をし、その司会(ファシリテーター)をする仕事で大阪に来ました。私は大阪出身なので、いつか故郷で鳥取県関連の仕事をするという夢を1つ掲げてきたのですが、今回その夢が叶ってうれしく思っています。また、6月には、『らぼーと門真』で鳥取県の魅力をPRする大きなイベントがあり、その司会をさせてもらいました。

ラジオでは、自分の素のままをさらけ出してしゃべる仕事なので、たまに批判のご意見をいただいたり、SNSに書かれたりして、そこでガクッと来る時があります。でも、100人いたら100人全員に受け入れられることは難しいと思うので、どんなメッセージもすべてありがたいと感じています。

一方で、「ラジオを聴いています!」とか、「Instagramを見えています!」など、街中で声をかけてもらえるとうれしく嬉しく思っています。今ようやく顔も知っていただけるようになってきたので、これからもがんばらなければいけないと思います。

—アナウンサーになるきっかけとその目標に向けて取り組んだことは?

ちょうど高校2年生の時に、テレビで女子アナブームがあり、アイドル的存在として扱われるようになって、会社員で安定的な収入がありながら、かつ芸能人のように華やかな面もあり

「楽しく仕事ができそうな職業だな」という憧れから、アナウンサーをめざしました。

大学は、経済・経営系の学部に通っていましたが、アナウンス関係の専門的なことは学べないので、1年生の時からアナウンススクールにも通ってました。アナウンススクールでは、朗読とかニュース原稿とか天気予報とかの原稿を、発声、イントネーションなどを基礎からやって、その時の勉強はめちゃくちゃ楽しかったことを覚えています。

大学卒業後、放送局のアナウンサー試験を受けましたが、採用はもらえませんでした。今でも競争率は高いのですが、当時は今以上に高く、例えば大阪の放送局のアナウンサーで1~3人とか採用されるのですが、そこに2,000人ぐらい応募があって、まるで宝くじに当たるかのような倍率でした。アナウンサーという夢が、もう確固たるものだったので、放送局以外は受けずに、大阪にある事務所に所属してフリーアナウンサーとして活動しました。今はラジオでレギュラー番組を担当していますが、この仕事を始めてから数年はメディアの仕事とは縁がなく、29歳にして初めて、名前を出してラジオ番組やテレビ番組への出演ができました。なかなか結果が出なくても「アナウンサーになる」という夢を諦める事なく、継続して挑戦し続けて良かったと思えました。

—高校時代はどのように過ごしていましたか?

中学時代はテニス部に在籍していたので、高校でもテニス部にと見学に行ったのですが、大阪成蹊女子高等学校は、当時結

構スポーツが盛んで、ちょっと厳しそうだなと、ぐずぐずしているうちに入部しないまま、3年間が経ってしまいました。

私がいた頃は、14クラスがすべて普通科だったのですが、とにかく休み時間や遊びの時間がすごく楽しかった印象があります。学校帰りに友達同士でちょっとお茶したり、駅のホームでただ座ってしゃべったり。地元や大学時代の友達とは、今は疎遠になっている人も多いのですが、今でもLINEグループがあるぐらい高校時代の友達が一番長く続いています。やっぱり女子校なので、男子の目線がない分、素の自分をさらけ出して裏表がなく付き合うことができたので、心と心が通じ合って、絆が深まったのかもしれないですね。

—高校生に向けてアドバイスがあればお願いします

ラジオの番組で話をしている、私自身があまり物事を知らないというか、知識が足りていないと実感することがあります。社会に出てから人と話す時も、ちゃんとした知識がないという人とな話もできないと思います。だから、高校の時とか、



時間がある時にもっといろいろな所に行き感じたり、勉強ももちろん大切ですが、新聞を読む、テレビのニュースを見る、政治経済のことをちょっとわかっておくと、浅く広くでもいいから、何らかの知識を増やしておくと、後々役に立つ時が来ると思いますし、どんな職業についても必要になってくると思います。

学外連携

大阪成蹊大学

データサイエンス学部



大阪成蹊大学、滋賀大学、兵庫県立大学が主催する「3大学データサイエンスシンポジウム2024」を開催

本学、滋賀大学、兵庫県立大学が主催する「3大学データサイエンスシンポジウム2024」を8月5日に、駅前キャンパス こみちホールで開催しました。2年目となる今回は、滋賀県立彦根東高等学校、雲雀丘学園中学校・高等学校、大阪府立摂津高等学校の教員も参加したパネルディスカッション「高校情報教育の現在地」を実施しました。

最初に、本学、滋賀大学、兵庫県立大学の学部長からそれぞれの大学のデータサイエンス系学部の特徴についてのプレゼンテーションがあり、その後、各大学の教員や在学生による研究発表がありました。学生発表では本学からは、データサイエンス学部2年生の吉岡大宙さんが「3次元空間の取得」、同学部2年生の大南弘樹さんが「機械学習を用いたダイヤフラム設計の分析」と題して発表。



▲大南弘樹さんの発表の様子

教員発表では本学からは、新庄 雅斗講師が、「京丹後市海水浴場における水深データの可視化と類似度評価」の演題で発表。この

研究は京丹後市からの依頼で、海水浴場離れによる利用者減少の課題を解決するために、海水浴場ごとに特徴量を抽出し、可視化と類似度評価をするもので、その解決策をデータ活用により提案する事例紹介がありました。

パネルディスカッション「高校情報教育の現在地」では、高等学校における情報教育、高校と大学の連携について、情報教育の重要性の意識の共有、データリテラシーの教育についてなどの意見が出され、高等学校のデータサイエンス教育に関しての問題点の共有や、大学が果たすべき役割などの提言がありました。データサイエンス系教育や人材育成の未来について、大学・高等学校間の情報交換、課題の把握と共有、解決に向けて活発で有意義な議論が行われました。

本学は、大阪のデータサイエンス研究・教育拠点として、今後も国内外に研究成果を発信するとともに、AI・データサイエンスの未来を牽引する人材の輩出に向けて、質の高い教育活動に取り組みます。



▲中村学長より開催の挨拶

教育学部



大阪府立桜和高等学校と高大連携イベント「大学生と学ぶこれからのスポーツ医科学」を実施

5月29日に、本学の教育学部 教育学科 中等教育専攻 保健体育教育コースが、大阪府立桜和高等学校の皆さんをお招きし、高大連携イベント「大学生と学ぶこれからのスポーツ医科学」を実施しました。この企画は桜和高等学校様から大学生と直接交流する機会を創り、大学進学や大学生の生活について知る機会を創出したいという要望を受け実現したイベントで年3回の開催を予定しています。



▲保健体育教育コースの在学生が自己紹介ワークについて説明する様子

第1回は大阪成蹊大学を会場に、大阪府立桜和高等学校の高校生19名、進路指導部長伊藤 智則先生、保健体育科 教諭 明貝 繁樹先生にお越しいただき、本学保健体育教育コース主任の臼井 達矢准教授を中心に大阪成蹊大学 教育学部の学びやスポーツ医科学を知ってもらうプログラムを企画立案、実施しました。

参加した高校生からは、「自分のからだの特徴を知ることができ、普段のトレーニングで競技力向上に繋がるようにしていきたいと思いました」といった感想が上がり、大好評のうちに終わることができました。

次回は9月25日に、桜和高等学校へ赴き、今回の測定結果からどの程度成長したか、リズムトレーニングの振り返り等を実施する予定です。



▲大学生や教員がサポートしながら測定を行う高校生の様子

大阪成蹊大学



産業界、自治体、地域等と連携し、教育・研究に資する学外連携学修を推進

産官学・社会連携センター長 大島 博文 経営学部教授

産官学・社会連携センターでは、産業界、自治体、地域等と連携し、教育・研究に資する学外連携学修を推進しています。様々な課題を抱える現代社会において、課題を解決するために求められる資質や能力として、「主体性」や「課題設定・解決能力」等が求められます。こうした能力や資質を修得するために、周辺に多くの企業や

自治体が立地する「まちなか大学」としての本学の好立地を生かし、実践的・魅力的なプログラムを展開しています。(令和5年度 大学50件、短期大学26件)

たとえば、(株)ローソン・大阪府等と連携した地元農産品、大阪産(もん)を活用したおにぎりやスイーツの商品開発では、その商品力や社会性

が高く評価され、実際に近畿地区の約2500店舗で商品として販売されるとともに、マスコミにも大きく取り上げられました。また企業から開発に携わった学生の「主体性」、「課題設定」が高く評価され同社へ就職するなど、連携の効果は大きな広がりを見せています。



▲テレビ番組の取材を受ける様子

こうした成果が原動力となり企業や自治体からの評価が高まることでさらにダイナミックな連携が広がっており、たとえば本年3月には、ソフトバンク(株)が進める「産学連携プロジェクト」に東京大学、大阪公立大学等と参画し、同社のIT技術も活用しながら社会課題の解決に向けた取り組みを始めています。来年2025年は、

阪神・淡路大震災から30年の節目の年となります。学生が主となって、南海トラフ巨大地震等に備えた住民の安全・安心を守るために、同社や池田市役所と連携する防災訓練の企画等も始まっています。

本学には多様で特色のある学部・学科・コースがあり、専門性を活かした課題解決のための「知のプラットフォーム」として地域社会からの期待が高まっています。また国においても、大学に対して高度で実践的な専門性や変化に対応する能力を持つ人材の養成を求めています。こうした「地域貢献」「人材養成」に応えるべく、今後も企業や自治体、地域など実社会との関わりの中で専門性を深めつつ社会課題の解決を図っていくことをめざして、学外連携学修をいっそう推進してまいります。



▲(株)ローソン・大阪府等と連携して開発した商品

クラブ活動 TOPICS

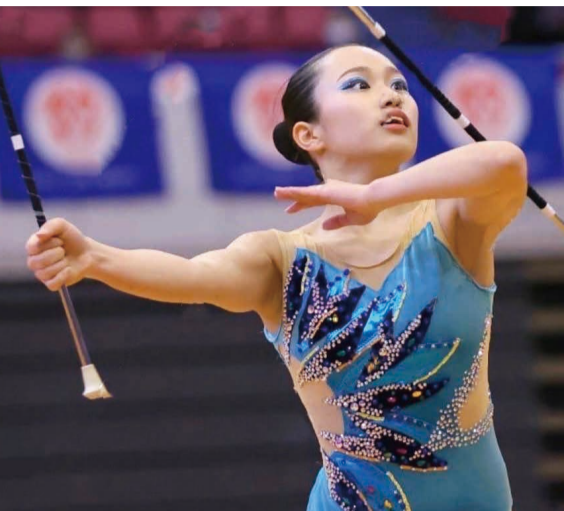
大阪成蹊大学

陸上競技部(女子)の平木 陽さんが、「リマ2024 U20世界陸上競技選手権大会」(女子400mH)日本代表



平木 陽さん(経営学部スポーツマネジメント学科2年生)
大会期間:2024年8月27日~31日
開催場所:リマ(ペルー)

バントワーリング部 大黒 愛美さんが、「2023年度全日本バントワーリング選手権大会」(3月)トゥーバトン(女子U-22)第1位



大黒 愛美さん(教育学部3月卒業)
1位

西端亮さんが「WFDF2024 世界ジュニアアルティメット選手権大会」(7月)に出場



西端亮さん(経営学部 経営学科1年生)
大会期間:2024年7月21日~27日
開催場所:バーミンガム(英国)

「第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会」(3月)で大学・高校のコーラス部が共に銀賞を受賞



大阪成蹊学園 コーラス部 一般部門
大阪成蹊女子高等学校 コーラス部 高等学校部門

「第93回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)」(7月)で、男女ともに決勝トーナメント大健闘



男子団体・女子団体
予選リーグ2位通過、決勝トーナメント 出場
写真提供:関西学生卓球連盟

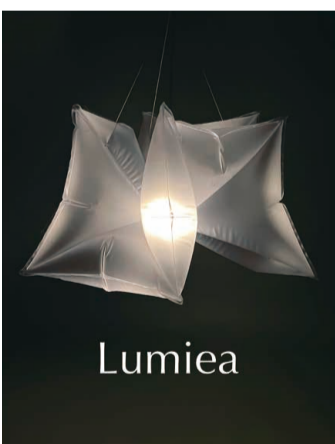
準硬式野球部が関西代表として「清瀬杯第56回全日本大学選抜準硬式野球大会」に初出場が決定(6月)



創部5年目で全国大会出場(8月31日~9月4日)
開催場所:札幌市ほか

ART NEWS

大阪成蹊大学



芸術学部、小松未来さん(3月卒業)が「第55回毎日・DAS学生デザイン賞大学生の部金の卵賞(プロダクト部門賞)」を受賞(4月)

大阪成蹊女子高等学校

美術科、上田あんりさん(3年生)の作品が、大阪府警の「ストーカー被害防止啓発ポスター」に採用(6月)

警察署、府内中学校・高等学校、府立図書館、各交通機関等で掲示されます。



大阪成蹊短期大学附属 こみち幼稚園

大阪成蹊短期大学附属 一こみち幼稚園だより 大桐中学校2年生 福祉ふれあい体験学習!!

6月26日から27日の2日間、8名の中学生が、幼稚園での生活を体験しました。コロナ禍があって、一時中断していましたが、昨年度から復活しています。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している今だからこそ、生徒たちには、「働く」ことの厳しさや喜びを感じる力、さまざまな人々と接することで自分の進路・生き方を選び取っていく力を身につけてほしいというこの体験学習のねらいがあります。



8クラスに1人ずつ保育の補助に入ってもらいました。本園を卒園した中学生が、4名いて、現在教頭になっている元担任と久しぶりに再会し、笑顔があふれていました。「こみち幼稚園にはもう行けないと思っていましたが、まさかのこの

機会で行けることになってとてもうれしいです」と伝えてくれる生徒もいました。

各生徒のプロフィールには、小さい子どもたちとコミュニケーションをとれるようにしたい、普段の学校生活では味わえないような働く事の大切さや喜びを学びたい、子どもの関わり方や接し方、幼稚園ではどんな仕事があるのかを知りたい、働く事で大切なことを知りたい、幼稚園で働く大変さや子どもといる楽しさを知りたいなど、一人ひとりはっきりとした学びたい意欲がみられ、とてもうれしくなりました。

初日は、園児のそばに行けなかったり、言葉をなかなかかけられなかったりと、とまどっている様子はありましたが、教員からのアドバイスや積極的にかかわる園児もいて、表情もだんだん和らいできました。水遊びも始まっていて、慌ただしい2日間でしたが、一生懸命園児たちと一緒に遊んだりしながらかわわりを楽しんでくれたように思います。

短い期間でしたが、今回の体験学習を経験して、学びたい事が学べたでしょうか? わかった事や気づきがたくさんあったことと思います。この経験をこれからの中学校生活に活かして、楽しい意義ある毎日にしてほしいと願っています。

こみち幼稚園園長 水上 明美

お知らせ

びわこ成蹊スポーツ大学



各自治体と連携し、U・Iターンを支援

キャリア支援部では、地方出身で、かつ地元就職を希望する学生に対して各県と連携しながら就職並びに経済支援の強化を図っています。8月現在で福井県、石川県、愛媛県、富山県の4県と就職支援協定を締結しており、インターシップ受入れ先企業の拡大や自治体からの求人情報の提供に加え、自治体独自の奨学金返還支援制度等を活用したU・Iターンの支援を進めています。

サッカー部からの海外挑戦



サッカー部望月総監督 インドネシア女子代表監督に就任

男子サッカー部の望月聡総監督(コーチングコース教授)が、インドネシア女子代表監督に就任することが決定しました。望月総監督は、2009年の本学男子サッカー部監督就任以降、数多くのJリーガーを輩出するなど全国の常連校へと導きました。また、2011年FIFA女子ワールドカップでコーチとして日本代表の初優勝に貢献しました。今回のインドネシア女子代表監督は、2024年からの2年契約。世界の舞台で望月総監督の新たな挑戦がスタートします。



サッカー部谷口拓海さん インドネシア女子代表コーチに就任

男子サッカー部の谷口拓海さん(4年次生)が、インドネシア女子代表コーチに就任します。望月聡総監督とタッグを組み、チームの強化に取り組みます。東京都の修徳高校出身の谷口さんは、本学入学後、男子サッカー部の学生コーチとして活躍。4年次の今年4月から休学し、オーストラリアへ語学留学に挑戦していました。そんな中、オファーが舞い込み、新たな挑戦を決意。望月総監督と同じく、2024年からの2年契約で21歳という若さで指導者としてのキャリアをスタートさせます。

大阪成蹊短期大学

幼児教育学科の紺谷武准教授が 第53回日本彫刻会展覧会で「西望賞」を受賞

紺谷准教授の作品「魔女」が、全出陳作品数240点の中から最も優れた作品に授与される「西望賞」を受賞しました。



< 作品紹介 >

シェイクスピアのマクベスという話に登場する魔女の一人をモチーフに制作しました。魔女が雲霧立ち込める戦場で、マクベスの狂った野心に火をともしきっかけになる予言を伝えるシーンを切り取りました。

< 紺谷准教授コメント >

北村西望(代表作は長崎の平和祈念像。文化勲章・紺綬褒章受章者)という彫刻家がありました。とても力強い造形が魅力的で、自分が学生だった時にあこがれた彫刻家です。今回その彫刻家の名がついた賞を受賞できたことに心より喜んでます。構想から試作まで10か月ほど、あとは2か月ほどかけて一気に作り上げました。



大阪成蹊学園

文部科学大臣賞・大阪府知事賞・大阪市長賞・毎日新聞社賞
後援/文部科学省・大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・毎日新聞社

第14回大阪成蹊
全国アート&デザイン
コンペティション2024
高校生
中学生
作品募集
【作品募集期間】
2024 9.1(日)
10.4(金)

OSAKA
SEIKEI
ART
& DESIGN
COMPETITION
2024
THEME ワタシノセカイ

大阪成蹊学園では、大阪成蹊大学芸術学部と大阪成蹊女子高等学校美術科と共に、14回目となる「大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション」を開催します。このコンペティションは、未来のための人材発見を目的として開催し、中学・高校生を対象に、アート・デザイン作品を公募し、優れた作品には個人賞並びに優秀学校賞を授与します。受賞作品は本学ギャラリーにて展示・公開いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

【テーマ】ワタシノセカイ
「ワタシノセカイ」を、自分のまわりの世界、自分の好きな世界観、マイワールド、これからの未来や社会を自分が感じる、考える世界観として自由に表現してください。

対象 国内に在住する高校生・中学生
詳細 大阪成蹊大学WEBサイト内 特設ページ
<https://univ.osaka-seikei.jp/lp/art-design-competition/>

大阪成蹊短期大学

大阪成蹊短期大学 生活デザイン学科
2024年度 全国高校生
ファッションデザイン画
コンテスト
例作
テーマ weave
今回のテーマ「weave」には「紡ぐ」という意味があります。「物語を紡ぐ」や「歴史を紡ぐ」というように、いろいろなことがらが複雑に織り合わされて、ひとつの世界が紡がれるのです。1本1本の糸が、他の糸と互いにつながり結ばれていきます。同じようにみなさんの「物語」「想い」「絆」をそれぞれ1本の糸に見立てて紡いでいき、一人ひとりの個性を自由に表現した作品を創作してください。
応募資格 高校生(個人)
応募方法 B4サイズ用紙に縦向きでデザイン画を描いて郵送してください。未発表のものに限ります。画は上手なくても自分の個性を表現できていれば評価します。用紙は白色の画用紙またはケント紙を使用してください。応募は何点でも可能です。
応募期間 ※消印有効
2024年7月15日(月)~9月30日(月)
応募期間中のオープンキャンパスで描画や表現方法をアドバイス!
詳細 大阪成蹊短期大学WEBサイト内
<https://tandai.osaka-seikei.jp/news/1111>



説明文(例)
彼女は今、歡喜に満ちている。長年憧れたステージに立つ夢が、やっと叶ったのだ。彼女は「マジシャン」。人を喜ばせ、楽しませることが仕事である。ポイントは、蝶の羽、色鮮やかな装飾品、そしてブーツのヒールの水槽に入っている魚です。「人を喜ばす」「楽しませる」ことが大好きなマジシャンのこの服は、透明、絹、金属などのたくさんの素材を使用します。